

学校施設の適正規模に関するアンケート(案)について

【対象者】

教員、保護者、児童生徒

【実施方法】

Logo フォームへの入力

【調査期間】

12 月中旬から1月中旬

【調査内容】

○教員用

(1) 勤務している学校名・役職等

(2) 勤務している学校全体の学級数

(3) 学校全体の学級数をどう感じるか

⇒小さいと感じる / 適正だと感じる / 大きいと感じる

(4) 担任を務めているクラスの学年及び学級数

(5) 学年の学級数をどう感じるか

⇒小さいと感じる / 適正だと感じる / 大きいと感じる

(6) 勤務している学校全体における次の項目の状況(下表の各項目に対して選択)

⇒そう思う / 少し思う / どちらでもない / あまり思わない / そう思わない

[学級数が少なくなることによる影響]

①クラブ活動や部活動の種類が限定され、選択の幅が狭まりやすい
②運動会や文化祭などの集団行動及び行事の教育効果が下がる
③上級生と下級生のコミュニケーションが少なくなる、学習や進路選択の模範となる先輩が少なくなる
④教員数が少なくなること、教員それぞれの専門性を生かした教育を受けられない可能性がある
⑤教員数が少ないため、経験、教科、特性などの面でバランスの取れた配置を行いにくい
⑥教員個人の力量への依存度が高まり、安定的な学校経営に影響が生じる可能性がある
⑦教職員一人当たりの校務負担や行事に関わる負担が重くなり、平日の校外研修や他校で行われる研究協議会等に参加することが困難となる
⑧学年別や教科別の教職員同士で、学習指導や生徒指導等についての相談・研究・協力等が行いにくい
⑨学校が直面する様々な課題に組織的に対応することが困難な場合がある

〔学級数が多くなることによる影響〕

①集団生活においても同学年の結びつきが中心となり、異学年交流の機会が設定しにくくなる場合がある
②児童生徒一人当たりの校舎面積、運動場面積等が著しく狭くなった場合、教育活動の展開に支障が生じる場合がある。
③特別教室や体育館、プール等の利用に当たって授業の割当てや調整が難しくなる場合がある
④全教職員により、児童生徒一人一人の個性や行動を把握し、きめ細やかな指導を行うことが困難であり、問題行動が発生しやすい場合がある
⑤学校運営全般にわたり、校長が一体的なマネジメントを行ったり、教職員が十分な共通理解を図ったりする上で支障が生じる可能性がある

(7) 担任を務めているクラスの学年における次の項目の状況(下表の各項目に対して選択)

⇒そう思う / 少し思う / どちらでもない / あまり思わない / そう思わない

〔学級数が少なくなることによる影響〕

① ティーム・ティーチング、グループ別指導、習熟度別指導、専科指導等の多様な指導方法がとりにくい
②クラス替えてメンバーが変化しないことから、いじめが発生したときに当事者を離せないなど、人間関係が固定化しやすい
③集団の中で自己主張をしたり、他者を尊重する経験を積みにくく、社会性やコミュニケーション能力が身につけにくい

〔学級数が多くなることによる影響〕

①学校行事等において、係や役割分担のない児童生徒が現れる可能性があるなど一人一人が活躍する場や機会が少なくなる場合がある
②同学年でもお互いの顔や名前を知らないなど、児童生徒間の人間関係が希薄化する場合がある

(8) 担任を務めているクラスにおける次の項目の状況(下表の各項目に対して選択)

⇒そう思う / 少し思う / どちらでもない / あまり思わない / そう思わない

〔クラスサイズが小さくなることによる影響〕

①体育科の球技や音楽家の合唱・合奏のような集団学習の実施に制約が生じる
②班活動やグループ分けに制約が生じる
③協働的な学習で取り上げる課題に制約が生じる
④生徒指導上課題がある子どもの問題行動にクラス全体が影響を受けやすくなる
⑤児童生徒から多様な発言が引き出しにくく、授業展開に制約が生じる
⑥教員と児童生徒との心理的な距離が近くなり、教員への依存心が強まる可能性がある
⑦児童生徒の人間関係や相互の評価が固定化しやすい
⑧集団の中で多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が少なくなりやすい
⑨集団内の男女比に極端な偏りが生じやすくなる可能性がある

(9) 1学年当たりの適正な学級数

⇒1学級 / 2学級 / 3学級 / 4学級 / 5学級 / 6学級以上

(10) 1学級当たりの適正な児童生徒数

⇒20人以下 / 21～25人 / 26～30人 / 31～35人

○保護者用

(1) お子様が通学している学校名及び学年

(2) 学級数が少なくなることによる影響のうち特に配慮すべき項目(下表の項目から3つまで選択)

① ティーム・ティーチング、グループ別指導、習熟度別指導、専科指導等の多様な指導方法がとりにくい
② クラブ活動や部活動の種類が限定され、選択の幅が狭まりやすい
③ 運動会や文化祭などの集団行動及び行事の教育効果が下がる
④ 上級生と下級生のコミュニケーションが少なくなる、学習や進路選択の模範となる先輩が少なくなる
⑤ クラス替えでメンバーが変化しないことから、いじめが発生したときに当事者を離せないなど、人間関係が固定化しやすい
⑥ 集団の中で自己主張をしたり、他者を尊重する経験を積みにくく、社会性やコミュニケーション能力が身につけにくい
⑦ 教員数が少なくなること、教員それぞれの専門性を生かした教育を受けられない可能性がある

(3) 学級数が多くなることによる影響のうち特に配慮すべき項目(下表の項目から3つまで選択)

① 学校行事等において、係や役割分担のない児童生徒が現れる可能性があるなど一人一人が活躍する場や機会が少なくなる場合がある
② 集団生活においても同学年の結びつきが中心となり、異学年交流の機会が設定しにくくなる場合がある
③ 同学年でもお互いの顔や名前を知らないなど、児童生徒間の人間関係が希薄化する場合がある
④ 児童生徒一人当たりの校舎面積、運動場面積等が著しく狭くなった場合、教育活動の展開に支障が生じる場合がある。
⑤ 特別教室や体育館、プール等の利用に当たって授業の割当てや調整が難しくなる場合がある
⑥ 全教職員により、児童生徒一人一人の個性や行動を把握し、きめ細やかな指導を行うことが困難であり、問題行動が発生しやすい場合がある

(4) クラスサイズが小さくなることによる影響のうち特に配慮すべき項目

(下表の項目から3つまで選択)

①体育科の球技や音楽家の合唱・合奏のような集団学習の実施に制約が生じる
②班活動やグループ分けに制約が生じる
③協働的な学習で取り上げる課題に制約が生じる
④生徒指導上課題がある子どもの問題行動にクラス全体が影響を受けやすくなる
⑤児童生徒から多様な発言が引き出しにくく、授業展開に制約が生じる
⑥教員と児童生徒との心理的な距離が近くなり、教員への依存心が強まる可能性がある
⑦児童生徒の人間関係や相互の評価が固定化しやすい
⑧集団の中で多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が少なくなりやすい
⑨集団内の男女比に極端な偏りが生じやすくなる可能性がある。

(5) 1学年当たりの適正な学級数

⇒1学級 / 2学級 / 3学級 / 4学級 / 5学級 / 6学級以上

(6) 1学級当たりの適正な児童生徒数

⇒20人以下 / 21～25人 / 26～30人 / 31～35人

○児童生徒用

(1)通学している学校名・学年

(2) 1学年当たりの適正な学級数

⇒1学級 / 2学級 / 3学級 / 4学級 / 5学級 / 6学級以上

(3) 1学級当たりの適正な児童生徒数

⇒20人以下 / 21～25人 / 26～30人 / 31～35人